

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 1日

事業所名 放課後デイ アネーラ

評価:個人評価後、項目ごとに意見交流をして共通理解を図り、事業所総意の評価とした。

(職員6人)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		コロナ禍、随時、同一ビル内の他階の活用も図り、学習と活動スペースを分け、安全・安心して取り組めるよう努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者2人に対して職員1人以上と、指定基準以上に加配配置することで、安全面と個別支援をする上で配慮をしている。
	3	事務所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	マンションの既存の設備を利用し、利用者の実態から未改修である。エレベーターは完備している。適宜、職員の手添え等の支援・付添・見守りに心がけ、安全への配慮に努めている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常に報連相に心がけ、全職員共通理解の下、業務内容・支援のあり方を振り返ることに努め、協働して療育に当たっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年度、1月に実施している。書面にて結果や今後の方向性について報告し、支援の在り方や業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者等向け評価表同様、事業所のホームページにて、年度末に公開し、閲覧可能である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在、外部評価は未実施のため、今後の検討課題として、参観・会議等にて情報共有を図っていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナ禍、外部研修の機会は少ないが、内部研修や自己研鑽による専門性の向上及び最新情報の回覧に努めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童と保護者のニーズ・課題を分析した上で、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返して計画の作成・実施をし、継続的に改善している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	事務所のアセスメント項目表を利用している。心理検査(新版K式、WISC-IV等)の情報は、保護者より提供を受けている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ケース会議や職員打合せで、内容やプログラムの目標を確認し、個に適した支援計画の作成に努めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		支援計画の個別・集団課題を組み合わせることで活動計画を作成し、多様な活動の提供に努めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		土曜・祝日・学休日等は、戸外活動の充実・交流に努め、民間施設見学、公共施設利用等、集団行動の仕方も学んだり、社会適応能力を養ったりしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別・集団の活動内容を個の実態・ニーズに応じて検討し、計画に反映させている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		活動の確認、役割分担等、必要事項について周知を図り、支援に取り組んでいる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録簿に記載している。翌日、記録を基に打合せを行い、情報共有し、支援に活かしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ヒヤリハット事例や事故報告書は翌日朝までに作成している。各種記録簿にも目を通し、支援の検証・改善につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月ごとに個別支援計画を作成し、保護者と面談し、必要に応じて見直しをしている。(コロナ禍は、主に電話連絡)
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	○		基本活動に偏りがなくバランスが取れるよう、多様なプログラムの提供に努めている。利用時間が短い時は難しい。
との関係連携や保護者	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議は行われていない。相談支援専門員が療育の様子を見学する時に、主に管理者・児童発達支援管理責任者が様子・変容等を伝え、情報の共有を行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校に迎えの場合、担任から様子を引き継ぐこともある。年間計画・行事予定・下校時刻等は、保護者からの情報や学校・学級通信、学校のホームページを参照している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		<input type="radio"/>	該当者は受け入れていない。てんかん発作等、配慮が必要な子どもは、保護者との連絡を密にしている。指示書がある場合は、それを基に保護者の説明を受けて支援に努めている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		<input type="radio"/>	小学校1年生からの利用者については、幼児及び就学前の支援諸機関からの情報提供が支援に活かされている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしている		<input type="radio"/>	他の放課後等デイサービスを併用している場合は、情報の提供に努めている。これまで、高等部卒業生が不在で、福祉サービス事業所へ移行する該当者はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		<input type="radio"/>	保護者の相談内容により、専門機関を紹介している。事業所が把握している事柄は、随時、情報提供している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>	公園では、幼児児童とのふれあい・遊びの交流をし、保護者・地域住民との関わりもある。公共・民間施設では、一緒に空間を過ごすことを大切にしている。(コロナ禍、交流を控えている)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		<input type="radio"/>	岐阜県・岐阜市障害福祉課との連絡は密にしているが、協議会への参加はしていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		事業所での出来事や気づいたこと等を口頭や書面で知らせる情報共有し、子どもの状況や課題等の共通理解に努めている。折に触れ、活動の様子をSNSで動画配信している。
保護者への責任説明等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		<input type="radio"/>	子育てについての個別相談は常時行っているが、具体的なトレーニングの支援は行っていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時に説明をしている。内容変更がある場合は、その都度説明及び書面で伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		相談は随時実施している。日々の送迎時や面談、連絡ノート等を通して発達の状況、課題等の情報交換をし、共通理解が図れるよう努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		<input type="radio"/>	保護者は、特に「会としての活動」及び「保護者会」の開催を希望していない。子どもと一緒に参加する「お出かけイベント」(コロナ禍、実施を控えている)を計画し、保護者間の交流を呼びかけている。参観は、随時実施している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		苦情対応の体制は整備している。幸い苦情はないが、あった場合は、苦情対応マニュアルに沿って、職員間で詳細を確認し、面談や電話等にて迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		「お出かけイベント」及び「評価表」を公開中である。画像は、個人が特定できないように配慮している。今後、掲載内容の更新・充実を努めていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	<input type="radio"/>		個人ファイルは、事務所で保管し施錠している。守秘義務の一環として、細心の注意をする等、職員で共通理解をしている。ホームページ上、個人情報取扱により慎重を期している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		寄り添い、思いを受け止め、認め励ますことを大切に自己肯定感を高めたい。日頃、連絡帳や送迎時の会話、電話、SNS、メール等でコミュニケーションに努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		招待はしていないが、平日は公園で一緒に清掃活動をしたり、自然発生的に触れ合いがあったりする等、交流をしている。
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	<input type="radio"/>	
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		年1回以上、定期的に避難訓練を実施している。今後も様々な事態(火事・地震・洪水等)を想定して訓練をしていく。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		虐待防止研修会に参加している。報告・回覧し、情報共有に努め、協働で対応している。チェックリストの活用も図っている。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<input type="radio"/>		手順マニュアルや書式を完備している。身体拘束と誤解されかねない移動中の「手つなぎ」については、書面で保護者が署名・捺印し、「安全への配慮上のこと」と、了解を得ている。人権侵害に当たる身体拘束の事例は、1件もない。
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		アレルギーの有無・食材を確認している。医師の指示書及び保護者からの聞き取りに基づいて、適宜対応している。
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		状況把握を的確に行い、記入後回覧し、職員間で情報共有を図っている。種別毎に原因を分析し、再発防止に努めている。

